



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和4年10月1日(土)
秋の合同剪定会に参加しました 編

6月に続き*、能代バイパス黒松友の会**の秋の剪定会の初日に参加しました。毎日のように週間天気予報を確認して過ごしていましたが、日ごろの行いが良かったのか、作業には暑過ぎるほどのお天気に恵まれました。

現在、木高研には5人の学生が勉学と研究に勤しんでいます。1人くらいは、能代にいないとできない体験だ！と剪定会に興味を持ってもらえたらと思っていたところ、修士1年の倉嶋新さんが「行きたいです！」と手をあげてくれました。昨年来、連続参加の安藤大将先生も手をあげて下さり、私にはあまり仕事のない剪定会となりました。

というのも、今年の春の剪定会。はしごなしで手が届く高さ担当の私。前年に虎刈りになるほど思い切って剪定をしたにも関わらず、伸びて茂っている枝の多さに驚き、もっと剪定しても大丈夫なのね！と強剪定をしてしまったから。

受付でいただいた剪定方法を記した資料には、「葉を摘み取った箇所は永遠に芽が出ません」との一文があり、すっかり怖くなって、開会式後、初心者向けの剪定講習に参加しました。ネットワークの松は、人通りも多い一等地にあります。なんとか姿形良く保てるよう、講師の方に足をお運びいただいて実地指導をも受けました。来春の緑摘みまでにどんな姿になっているか、ドキドキです。

暑い中での作業、皆さまお疲れ様でした。また、ご準備・サポート下さいました事務局の皆さま、お世話になりました。有難うございました

文： 渡辺 千明

*6月18日の活動レポート参照

**能代バイパス黒松友の会紹介 URL:

https://www.thr.mlit.go.jp/noshiro/douro/noshirokokudou_douro/vsp/kuromatu/main.html



講習会用の松で実地講習。実物は資料のようにシンプルではないので、初心者には勉強になります。「永遠に芽がでない」にビビり、質問も相次ぎ、なかなか現場に向かえません。



春の強剪定にも負けずに生育している緑に生命の強さを感じます。緑の松ぼっくりが上の方に結構あったのは、生命の危機を感じたからなのか?! 来春まで、元気にいてねと祈るばかりです。



安藤先生(左)と倉嶋さん(右)は黙々と手を動かし、作業に没頭(上)。お昼過ぎには、スッキリした姿になりました(下)。